

ベトナムにおける

日本語教育の現状と日本留学に関する研究

キーワード: ベトナム、日本語教育、日本語試験、日本留学パターン、日本留学の実態

教育システム専攻

DINH THUY LINH

1. 論文の構成

序章	問題意識及び目的
第1節	問題意識
第2節	研究目的・意義
第3節	先行研究の分析
第4節	研究方法
第1章	ベトナムの教育制度及び日本語教育の発展
第1節	ベトナムの教育制度
第2節	ベトナムの日本語教育の歴史と現在
第3節	各段階における現状
第4節	小結
第2章	多様な日本語試験と留学との関係性
第1節	日本語能力試験 (JLPT)
第2節	日本語 NAT-TEST
第3節	日本留学試験 (EJU)
第4節	小結
第3章	ベトナムから日本への留学のパターンと諸問題
第1節	留学の状況
第2節	短期留学
第3節	長期留学
第4節	ベトナムから日本への留学における問題及び課題
第5節	小結
第4章	ベトナムから日本への留学の実態
第1節	ベトナムにおける日本語学習者へのアンケート調査
第2節	在日ベトナム人留学生の進路希望
第3節	小結
終章	本研究の成果と今後の課題
第1節	研究成果と考察
第2節	課題と展望

2. 論文の概要

序章

ベトナムでは、2003年国際交流基金による、「ベトナム中等学校における日本語教育試行プロジェクト」が開始された。2008年には「2020年国家外国語プロジェクト」が立ち上げられ、初等教育では、小学校3年生からの第一外国語として日本語教育が2014年9月から実施されている。ベトナムの各教育段階では、第一外国語として日本語教育が開始され、日本語の普及とともに、日本語学習のための設備の不足、授業の質の低さ、日本語のレベルアップの課題、日本語学習者の進学方向が重要な課題となりつつある。

現在、ベトナムから日本への留学生数は東南アジアにおいては第1位であるが、ベトナムから日本に直接進学する等、留学の過程で多くの問題が生じてきた。例えば、日本の大学、大学院へ進学志望者のための日本語学校が少ないこと、留学情報の不足、留学の手続きが複雑であることが挙げられる。

本研究の目的は、ベトナムにおける日本語教育段階と日本留学までの過程でどのような問題があるのか明らかにすることである。この目的のため、以下の4つの課題に取り組む。まず、ベトナムにおける日本語教育の状況を考察する。そして、多様な日本語試験と留学との関係性について検討する。次に、ベトナムから日本への留学について現状や問題点を明らかにする。それを踏まえて、ベトナムにおける日本語学習者としての日本語教育と日本への留学の実態を考察し、日本の日本語学校のベトナム人留学生を対象として、日本での進路希望について明らかにする。

先行研究の検討について、まず、2006年、ベトナム政府による世界の日本語教育とベトナムにおける日本語教育の動向という調査を行った。本研究では、こうした動向調査を踏まえ、ベトナムにおける日本語教育に関する学習上での問題を明らかにし、日本語教育を受ける動機、日本への留学希望の理由を明らかにしたい。つまり、日本語学習者

の立場で実際に日本語学習者自身の日本語学習、日本留学に焦点を当てる。

堀井(2002)は「日本留学試験」の問題点を試行試験の受入体制、試験全体の分析によって諸課題が示された。また、試験の活用へ向けて留学生受入体制の構築、アカデミック・ジヤパニーズにおけるコミュニケーション力・理論的能力の測定方法の研究、アイテムライターの育成などの解決策を検討された。本研究では、ベトナムで受験者数が最も多い日本語能力試験、日本語 NAT-TEST 試験と日本留学試験を考察したい。

ベトナムから日本への留学における問題について、2012年にはレー・エン・ランほかによって、来日ベトナム人留学生の増加に資することを目的に、日本に在留しているベトナム人留学生の状況、日本に留学する方法、大学入学情報などが明らかにされている。本研究では、日越両国の留学に関する政策文書を分析し、さらに、アンケート調査を通して留学生たちの日本への留学準備過程における問題点を明らかにする。

本研究の研究方法は文献研究とアンケート調査を主にした現地調査によって構成されている。

文献研究では、主にベトナム語と日本語の文献研究や日越両国政府の留学送り出しと受け入れに関する政策文書、資料の分析に加え、インターネットで収集した日越両国の政府機関の文献・資料などをまとめ、分析を行う。

また、本論文では、2種類のアンケート調査をもとに日本への留学の実態にアプローチする。①一つ目は、ベトナムにおける日本語学習者の実態調査である。ハノイでは、ベトナム国家大学ハノイ校付属外国語大学の日本語学部、ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学付属外国語高校の日本語班、ハノイ貿易大学の日本語学部、トルン・ヴオング (TRUNG VUONG) 中学校の日本語班、ホーチミンでは、オープンホーチミン大学の外国語学部の日本語学習生徒・学生を対象としてアンケート調査を行った。まず、生徒、学生の年齢、在学段階、日本語学習時間、日本語能力の自己評価などの属性を把握することを尋ねた。そして、ベトナムに日本語学習の目的、日本語学習に関する状況の満足度、また、日本留学希望があるか、留学の動機、どこの機関へ留学したいか、学習プログラムなどを尋ねた。更に、ベトナムにおける日本留学についての情報入手のルート、日本での学校、生活、また日本への留学手続きは、どの程度分かるのか尋ねた。②二つ目は、日本における日本語学校の学生へのアンケート調査である。福岡市内の2つの日本語学校に在学するベトナム人留学生を対象としてアンケート調査を行った。ベトナム留学生の日本語学習の状況、来日前どの程度日本語を勉強したのか、日本語学校を卒業する時点での日本語能力はどの程度か、卒業後の進路希望につ

いて尋ねる。

アンケートを通して、現場の声から情報を収集することができ、ベトナムにおける日本語教育の現状、日本語学習者の希望、日本語学習の目的、日本留学の動機、希望等を把握することができる。このような日本留学希望者の声を踏まえて、進学希望者を増やすために、今後となる政策への提言を示すことができる。ベトナムから日本への留学する過程にある問題点を明らかにすることをできると考える。

第1章 ベトナムの教育制度及び日本語教育の発展

第1章では、ベトナムの日本語教育を概観してから、ベトナムにおける初等教育段階、中等教育段階、高校教育段階、民間教育段階の日本語教育の学習者、教員、教科書、日本語教育の設備等などの現状、問題点、課題を論じた。

「JICAの日本語教育協力の事例報告—ラオス・カンボジア・ベトナム—」に基づいてベトナムにおける日本語教育の変遷は、3期に分けている。第1期は、1950年代からベトナムのカンボジア侵攻による日本語教育中断までの日本語教育導入期である。第2期は、ベトナムの日本語教育中断が終了して(1986年)から青年海外協力隊派遣前までの日本語教育再開期である。第3期は青年海外協力隊が派遣されて(90年代後半に入る)から現在までの日本語教育の発展期である。

2014年に小学校での日本語教育を始め、ベトナムでは小学校から大学まで日本語を第一外国語として行っている。ベトナムの日本語学習者が安定的に増加しているといえる。それとともに、解決していない問題が生じている。たとえば、教員が少ない、教師の教授レベル、教科書や参考書が足りない、特に日本語教科書のベトナム語版が不十分である。そして、日本人、日本人教師との交流機会、日本文化の授業、つまり、日本理解の機会が少ない。

ベトナムにおける各教育機関で日本語学習者が徐々に増加するとともに、日本への留学希望者も増加していると考えられる。そのため、日本の大学と連携し、留学プログラムが開発することが必要となる。

第2章 多様な日本語試験と留学との関係性

日本への留学に最も関連する日本語試験、すなわち、日本国際教育支援協会と国際交流基金が「日本語能力試験」(JLPT)を実施しており、専門教育出版『日本語 NAT-TEST』運営委員会が「日本語 NAT-TEST 試験」を実施しており、日本学生支援機構が「日本留学試験(EJU)」を実施している。3大日本語試験の概要、特徴及び、ベトナムにおける各試験

について論述した。

①ベトナムにおける JLPT の受験者数は世界第4位であり、ベトナムにおける日本語学習者は増加傾向にあるが、日本語能力試験N3 レベルまでしかもっていないというのが現状である。受け入れる社会としての日本では、N2 やN1 レベルの日本語能力を求めているためベトナム人の日本語能力の向上が今後の課題であるといえる。

②近年では、日本語NAT-TEST を受験者数が増えてきたが、多くは、低いレベルである。現在、日本の日本語学校へ留学するとき、多くの日本語学校は日本語能力試験あるいは、日本語 NAT-TEST の N5 以上のレベルまでしかを要求しないことが原因となっているのではないかと考える。

③多くのベトナム人日本語学習者は日本の大学に留学したいが、ベトナム国内の EJU を受験する者が少ない。正式に日本大学に進学したいなら、EJU の受験点数が重要であるが、多くは、日本で受験し、ベトナム国内で受験者数が少ない、変化が見られないという状態である。

ベトナムにおける日本語学習者数が増加するにつれて、試験受験者数が増加する。受験者数が増えるだけでなく、試験の質が向上することが期待される。ベトナムの試験結果は信頼性があるため、試験の結果に基づいて、より多くのベトナム人日本語学者が日本へ留学することができ、就職できると期待する。

第3章 ベトナムから日本への留学のパターンと諸問題

本章では、日越両国の留学生の送り出しと受け入れに関する政策を検討し、この中からベトナムから日本への留学の現状と諸問題を明らかにする。

グローバルな時代の中で、日本国内のグローバル人材を育成することが急務となっている。日本政府は、2008 年に「留学生受け入れ 30 万人計画」を出した。その一方で、ベトナム政府においては様々な「留学生送り出し優先政策」を策定している。さらに、ベトナムにおける日本語学習者が急増している現状に伴い、日本へ留学するベトナム人も確実に増加している。

現在、日本における外国人留学生の受け入れは、ベトナム人留学生数は日本における国・地域の留学生の中で第2位と急上昇している。学習機関と学習プログラムによるベトナムから日本への留学のパターンは以下のように分類される。

① 日本語学校に入学

2015 年から日本の日本語学校に在学しているベトナム人留学生は、1 番多い（在日ベトナム人留学生の半分以上）。多くの学生は、アルバイトしながら日本語を勉強するため、

日本語能力がそれほど上達しない、近年では犯罪問題もあった。今後の課題になりつつある。

② 直接に日本高等教育機関に入学（英語、日本語コース）
多くの英語コースの留学生は理工系であり、奨学金をもらって来日する。日本語コースの留学生は、ベトナムで日本語を専門として勉強した。

③ 協定校間の交換留学（主に日本語コース）

日越両国の大学と大学、大学と大学院の連携における交換プログラムで留学生を送る。現在このパターンの学生数まだ多くないが、今後が増える可能性があると思われる。

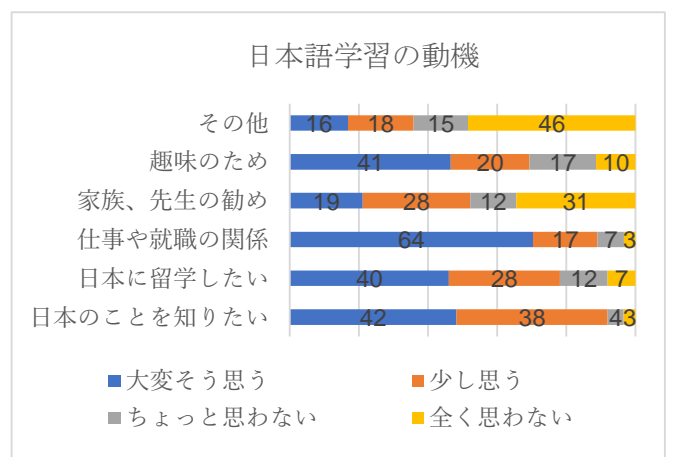
④ 日本の大学、大学院への編入（主に日本語コース）

現在、このパターンのベトナム留学生数は非常に少ない。今後、日本に留学するベトナム人留学生の増加傾向に対して、留学の「質」を向上することは、両国の課題となっている。日本語学校だけではなく、大学、大学院へ進学する留学生の割合が上がるのが期待される。そのためには、ベトナムの中高等教育段階と日本の大学の交換留学を促進することも必要である。

第4章 ベトナムから日本への留学の実態

本章では、ベトナムにおける日本語教育学習者のアンケート調査を通して、日本語学習の現状や日本語学習者の日本語学習の条件や日本留学に関することが分かった。

①ベトナム人大学生で日本語を学習者の日本語学習の目的は「仕事や就職の関係」といった明確な目的であるということが分かった。



②多くの日本語学習者は、現在の学習条件に満足しているが、「会話力」について心配している。日本人、日本人教師と話す機会が少ないという現状である。日本社会への理解のための教育や日本文化に関する活動への参加機会の拡大が希望している。中学校では日本語学習時間割が少ないため、日本語がそれほど上達しない。高校では大学入学試験を受験するため、試験の内容を中心として練習問題をす

る時間が多い。

③日本に留学するなら、日本の大学に留学したいという希望が多くあったが、留学手続きなど詳しい事を知らないという現状である。多くのベトナム人学生はインターネットを通して、日本の学校について情報を探している。日本の学校へ直接に問い合わせる学生が少ない。

もう一つのアンケート調査は、福岡市の日本語学校に在学しているベトナム人留学生である。日本語教育機関に在学する多くのベトナム人留学生は来日前日本語能力N5レベル程度で、卒業時点で、日本語能力N3-N2レベルを期待する学生が多い。自身の日本語能力に合わせてもしくは、日本留学試験の結果に基づいて公立大学、私立大学や専門学校に進学したいと考えている。日本語学校の学生にとって、就職は未だ難しいということがわかった。ベトナムから日本への留学生が増加しているのはここ数年の話であり、その中で、多くは日本語学校の学生であるため、日本語学校を卒業した後、進学や就職活動などの問題が現れてくる段階であると思われる。

終章 本研究の成果と課題

本研究の成果は、四つの方面からまとめられると考える。

まず、ベトナムにおける日本語教育について、日越両国の関係親密化とともに、ベトナムにおける初等教育段階から高等教育段階まで日本語教育学習者が増加していることが分かった。それとともに、日本語の教師の不足、教師の資格、日本語学習の設備、教科書の改善も進めなければならないということを明らかにした。また、日本語だけではなく、日本文化、日本へ理解することも大事にしていく必要があると思われる。

次は、日本語試験と日本留学に関する試験という方面の成果である。ベトナムにおける日本語学習者数が増加するにつれて、JLPT、NAT-TEST 日本語、EJU の受験者数が増加することが分かった。しかしながら、多くは、日本で受験しており、また、ベトナムでの受験者の多くは低いレベルということである。

そして、ベトナムから日本への留学プロセスにおける成果である。現在、海外から日本への留学において、ベトナムは第2位である。ところが、多くのは日本語学校の学生ということが分かった。ベトナムの高校・大学から日本の大学・大学院に直接に進学する、つまり、ベトナムの高校・大学と日本の大学・大学院の連携は、まだ不十分であるということが分かった。

最後に、ベトナムにおける日本語学習者としての日本語学習状況と日本への留学の実態における成果である。日越

の関係親密化とともに、日本語人材が急に必要になり、日本語教育が注視されている。ところが、「教材不足」、「会話力が低い」、「日本、日本文化へ理解する授業が少ない」などの問題点が挙げられた。

日本語学習者大学生・生徒は留学を考えると、必ずしも日本のみに留学するわけではない。日本留学希望者以外、多くの生徒は、英語圏の国へ留学を希望しているが、日本へ留学すれば、やはり日本の大学への進学を希望するものが最も多い。日本語学校への調査からは、ベトナム留学生は、一般的には、このような「ベトナムの高校・大学→日本の日本語学校→専門学校・短大・大学院」に進学する→帰国か日本に就職する」という経路が見られた。

今後ベトナムでは、日本語教育は英語教育の次に、一般的に行われる可能性があると思われる。ゆえに、ベトナムにおける日本語教育の将来的可能性のためには、日本語学習者の増加に伴って、教師数の増加、教師の「質」を検討しなければならないことになる。

本調査の調査地域は、一部はハノイであり、一部はホーチミンと限られていることに加えて、多くの調査対象が文系という限界があるため、ベトナム全国の代表することはできないが、ベトナムから直接に日本へ留学したいという希望が高まりつつあることがわかった。そのため、日本の教育機関での学習環境になれるため、また日本語能力を上げるため、大学に入る前に大学準備教育課程が設立されるべきであると考え。現在の問題として、多くのベトナム人学生が日本の大学に進学希望することに応じた、留学生受け入れ側としての日本の大学政策、方針を整理する必要がある。このように留学生受け入れ事業の実態を踏まえ、如何に留学をスムーズにさせるのか、今後の施策や教育の開発が必要である。

3. 主要参考文献

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊事務局、2005年、『JICAの日本語教育協力の事例報告ーラオス・カンボジア・ベトナムー』

国際交流基金、『海外の日本語教育の現状＝日本語教育機関調査・2006年＝改訂版』、2008年7月

堀井恵子、2002年、「日本留学試験」とその「日本語試験：今後の活用へむけての課題と提案ーシラバスと試行試験を分析して」、留学生教育、第7号

レー・エン・ラン、ブ・マイ・フーン、花岡伸也、2012年「ベトナム人留学生の日本の大学入学実態調査」、国際開発工学報告